

総合科学部 日本語教育関連授業

国際センターの日本語教育担当教員が総合科学部の日本語教育に関する専門科目を担当している。

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2					
3・4					
5・6				日本語教育演習（後期）	
7・8				日本語教授法Ⅰ（前期） 日本語教授法Ⅱ（後期）	
9・10					

日本語教授法Ⅰ 前期 三隅友子

- ・ 受講人数： 30 名
- ・ 目標：

外国語としての日本語教育の全体像をとらえ、様々な教授法を検討し、現場に応じた効果的な教授法とは？を考察する。またそれに伴い日本語教育のコースデザイン、カリキュラムデザイン、クラス運営についても学ぶ。
- ・ 実施内容：

今期は、受講生の留学生 6 名（アメリカ 1 名、韓国 3 名、中国 2 名）に、学び手の視点から情報を多く提供してもらった。また 7 月には徳島を訪問したドイツ人高校生との交流会を実施し、グループ毎に企画・運営・実施及び評価という教育プログラムの流れを体験した。また最終回には留学生による「日本人への提言（日本語 7 との連携）」発表会を実施し、スピーチの指導とその評価を実際に行えた。特に講義形式による理論の解説のみならず、実践の機会が多く、学生の主体的な参加を仰ぐことができた。

日本語教授法Ⅱ後期 大石寧子

- ・ 人数： 11 名（内 5 名留学生）
- ・ 使用教材： 「日本語教育 文法講義ノート」山下暁美編著他 アルク
- ・ 実施内容：

日本語教授法では、日本語教育を支える日本語文法の指導を行った。国文法との違い、日本語文法の特徴、品詞、フォーム、テンス・アスペクト・モデルティ概念と機能等については、全体像がつかめるような授業を行った。後期後半は、学生たちが当該部分を事前に調べて発表し、教師が補足する形

でクラスを展開させた。

日本語教育演習 後期 三隅友子

- ・ 受講人数： 9 名
- ・ 目標：
実際の教室等で学生を対象に日本語教育の実習を行う。 効果的な教授法や
クラス運営を体験的に学ぶ。
- ・ 実施内容：
留学生 5 名（韓国 2 名、中国 3 名）と日本人学生 4 名の受講生であったため、
いわゆる日本人母語話者教師が外国人学習者に教育するという形式だけで
なく、プロジェクトワーク型の授業の計画・運営・実施・評価に重きを置い
た。朗読作品を作るという音声教育の活動からはじめて、最終的には「まほ
ろば国際プロジェクトⅢ」の学習者と演劇活動を作る「日本人参加型プロジ
ェクトワーク」を美馬市脇町オデオン座で実施した（2010 年 1 月 17 日）。日
本人学生には、初級の日本語授業の見学及び参加を課した。